

# 数字で見る大阪経済のツボ

大阪シティ総合研究所の専属スタッフが  
さまざまな経済指標にスポットをあて、  
大阪経済の現状を分かりやすく解説します。

2024年12月

## 大阪府の経済力について

主要都府県内の総生産を時系列で見ますと、全県に対する大阪府の構成比は昭和45年度には10.2%を占めており、「1割経済」と呼ばれていました。その後は1990年度ごろのバブル経済期を除き、低下傾向が続きましたが、2010年代半ばから下げ止まりの兆しがみられます。令和2年度の大阪の府内総生産（GDP）は、東京都に次いで2番目の規模であるものの、その構成比（7.1%）は3位の愛知県（7.1%）と同程度となっています。

主要都府県内総生産の推移（名目）

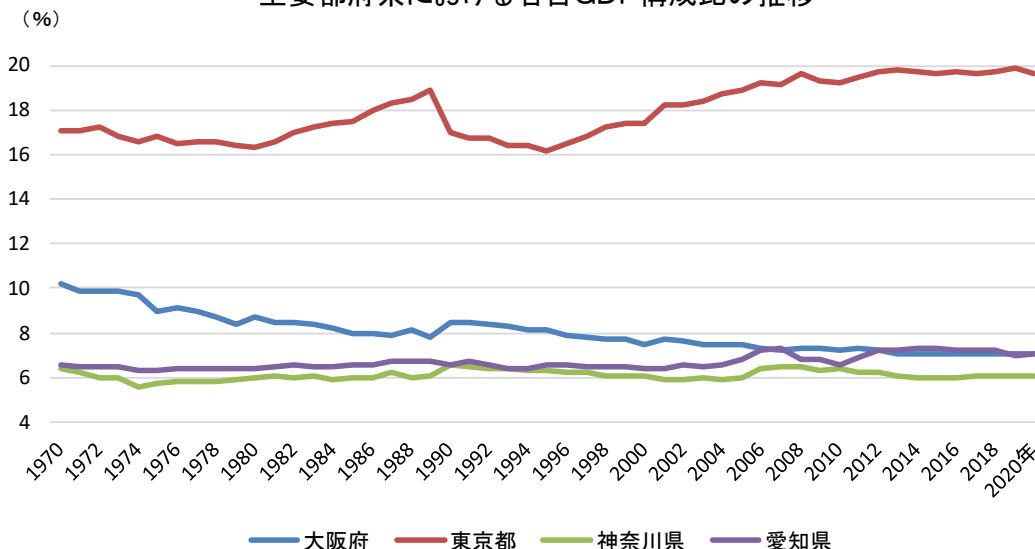
（単位：億円、%）

年度	昭和45年度		平成2年度		平成22年度		令和2年度	
	(1970)	構成比	(1990)	構成比	(2010)	構成比	(2020)	構成比
大阪府	75,224	10.2	385,757	8.5	370,011	7.2	397,203	7.1
東京都	125,547	17.1	774,886	17.0	979,114	19.2	1,096,015	19.6
神奈川県	47,086	6.4	299,565	6.6	327,742	6.4	339,054	6.1
愛知県	48,599	6.6	299,963	6.6	338,245	6.6	396,592	7.1
全県計	735,430	100.0	4,552,070	100.0	5,112,672	100.0	5,587,783	100.0

【資料】内閣府「県民経済計算」による。

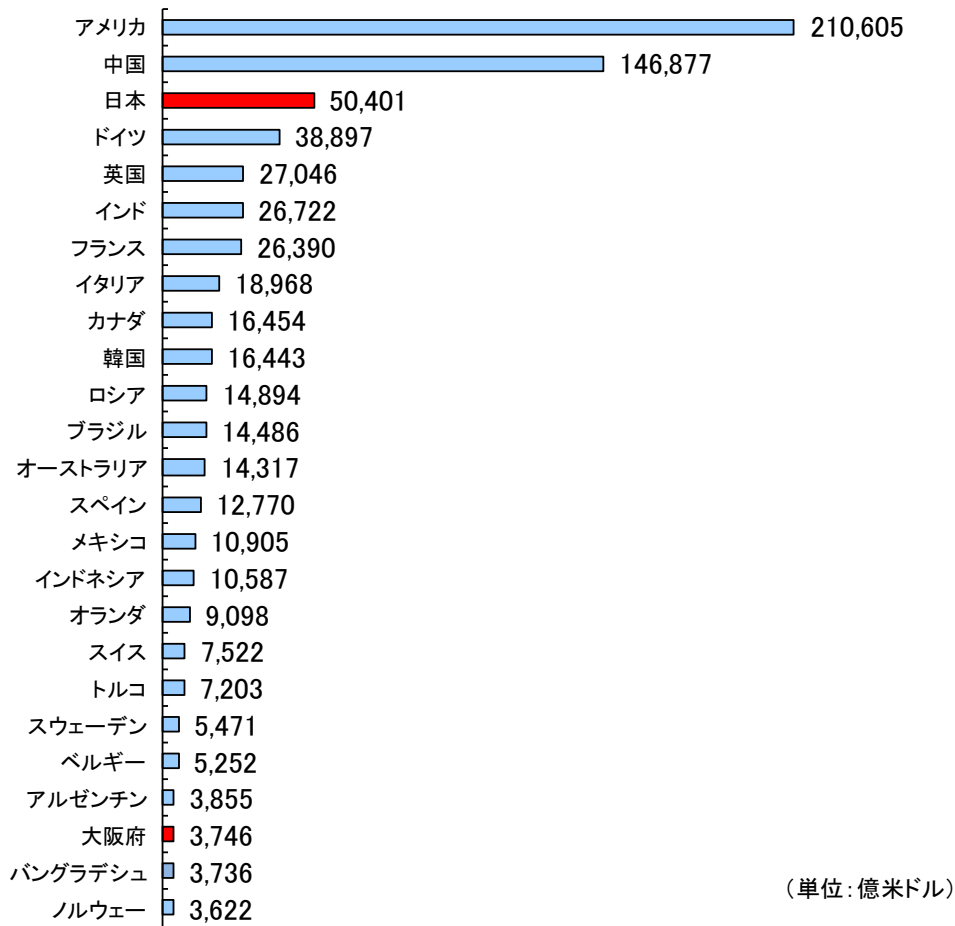
（昭和45年度＝昭和55年基準、平成2年度＝平成7年基準、平成22年度＝平成23年基準、令和元年度＝平成27年基準）

主要都府県における名目GDP構成比の推移



2020年の大阪の府内総生産（GDP）を世界各国の国内総生産と比較してみますと、バングラデシュに相当する規模となっています。国内では地位の後退が目立つ大阪府経済も、国際比較では国家と同等の経済規模がありその巨大ぶりが実感できます。

主要国の国内総生産（名目値・2020年）



(注)①国際連合「National Accounts Main Aggregates Database」より作成。2020暦年。

②数値はすべて名目値である。

③大阪府は年度値、その他は暦年値。

④大阪府値の換算レート:1ドル=106.04円

以 上